

第49回

水工学に関する夏期研修会

主催：公益社団法人 土木学会（担当：水工学委員会，海岸工学委員会）

共催：公益社団法人 土木学会 中部支部

期日：2013年8月26日(月)～27日(火)の2日間
(A・Bコース並行開催)

場所：名古屋工業大学 52号館1階 5211教室，5212教室
(名古屋市昭和区御器所町)

アクセスマップURL

<http://www.nitech.ac.jp/access/index.html>



本研修会は土木学会のCPD
(継続教育)プログラムと
して認定されています。

日程および講義題目・講師 (注) 講義題目には若干の変更がある場合があります

Aコース (河川・水文) [行事コードNo.23202]

Bコース (海岸・港湾) [行事コードNo.23203]

《総合テーマ》：「都市の水防災と河道の維持管理」

《総合テーマ》：「伊勢湾台風級高潮と巨大地震津波を考える」

■ 8月26日 (月)

■ 8月26日 (月)

9:05～	開会挨拶 名古屋工業大学・教授 富永晃宏	9:05～	開会挨拶 名古屋工業大学・教授 喜岡 涉
9:15～ 10:45	東海ネーデルランド高潮洪水防災について 小林克治 (中部地方整備局・河川部・水災害予報センター長)	9:15～ 10:45	愛知県の海岸防災対策について 沼野秀樹 (愛知県建設部・技監)
11:00～ 12:30	都市域における浸水解析 武田 誠 (中部大学・教授)	11:00～ 12:30	地球温暖化による海象・気象への影響と 可能最大級高潮 吉野 純 (岐阜大学・准教授)
13:30～ 15:00	地下浸水とその備え 戸田圭一 (京都大学・教授)	13:30～ 15:00	伊勢湾台風級の高潮と確率潮位 北野利一 (名古屋工業大学・准教授)
15:15～ 16:45	豪雨災害による人的被害 牛山素行 (静岡大学・准教授)	15:15～ 16:45	防波堤の信頼性設計 長尾 毅 (神戸大学・教授) (元 国土交通省 国土技術政策総合研究所・港湾研究部長)

■ 8月27日 (火)

■ 8月27日 (火)

9:15～ 10:45	水系一貫の土砂管理について 角 哲也 (京都大学防災研究所・教授)	9:15～ 10:45	沿岸域における防災・減災対策について 青木伸一 (大阪大学・教授)
11:00～ 12:30	河川堤防の浸透破壊と液状化 杉井俊夫 (中部大学・教授)	11:00～ 12:30	南海トラフ巨大地震津波について 水谷法美 (名古屋大学・教授)
13:30～ 15:00	河道内樹林化機構とその制御 前野詩朗 (岡山大学・教授)	13:30～ 15:00	津波防災の歴史と今後の課題 首藤伸夫 (東北大学・名誉教授)
15:15～ 16:45	中小河川における多自然川づくりの 考え方と課題 萱場祐一 (土木研究所・自然共生センター・センター長)	15:15～ 16:45	地域防災力の向上を目指して 松田曜子 (関西学院大学・准教授)

定員：Aコース150名，Bコース150名

受講料：1コースにつき，一般16,000円，学生・院生13,000円(いずれも講義集代を含む)

申込方法：土木学会ホームページ：<http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp>
もしくは、FAX(学会誌巻末に掲載されている「本部行事参加申込用紙」)をご利用下さい

申込締切日：2013年8月16日(金)【必着】

締め切り日以降は，原則として行事当日会場にて受付致しますが，定員に達している
場合がありますので，事前に下記へお問合わせ下さい

問合せ先：土木学会 研究事業課 TEL:03-3355-3559(担当:岩西)

備考：会場の詳細，講義の変更等の最新情報に関しては，下記ホームページでご確認ください

水工学委員会ホームページ

<http://committees.jsce.or.jp/hydraulic/>

海岸工学委員会ホームページ

<http://www.coastal.jp/ja/>





水工学に関する夏期研修会を、今年度は、名古屋工業大学で開催致します。

河川・海岸・港湾にたずさわる技術者に情報を提供する非常に有益な場と知られ、今年で49回を数える研修会です。ベテラン技術者のみならず、若手技術者ならびに大学院生を対象に参加者を募っております。

- * 期 日——2013年8月26日（月）～ 27日（火）の2日間（A、Bコース並行開催）
- * 場 所——名古屋工業大学（名古屋市昭和区御器所町）52号館1階 5211教室，5212教室
- * 申込方法——下記のいずれかの方法でお申込下さい
 - (1) 土木学会ホームページ：<http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp> から
 - (2) FAX：学会誌巻末に掲載されている「本部行事参加申込用紙」をご利用下さい。
- * 講義集の販売について
テキストのみご希望の場合は、研修会終了後に出版事業課までお問合せください。
注）研修会場でも販売いたします。 価格：A、Bコース共に 1冊 6,500円（税込）

Aコース：河川・水文コース 「都市の水防災と河道の維持管理」

近年、記録的な豪雨が頻発しており、各地で甚大な被害が発生しています。また、伊勢湾台風並みの大規模な台風が来襲しないとも限りません。都市化の進展に伴い豪雨や高潮による災害の形態も変化すると予想され、被害の予測や避難態勢の整備が急務となっています。1日目は、大規模化する風水害に対して都市の水防災の観点から掘り下げ、スーパー伊勢湾台風を想定した広域避難対策から、避難を確実にするための氾濫シミュレーションや地下浸水への備え、そして実際の防災情報の伝達や教育について講義していただきます。

一方で、河道の維持管理は、洪水時の安全性の確保のための点検から自然環境の保全再生や親水空間の保持等の面で重要性が増しています。堤防は治水上最も重要な構造物であり、河道の土砂輸送は治水上および環境上において広範囲に影響を及ぼし、河道の樹林化は全国的に問題となっており適切な管理が求められています。その中でも河道は生態系にとって貴重な場所であり、多自然川づくりによって自然再生が期待されています。2日目は、このような流れで河道の維持管理について講義をお願いしました。

この講習会では、以上のような異なる2つの課題について講義することとなりますが、いずれも近年重要性が指摘されているもので、全体として河川管理上の問題を包括しているものと考えます。流域や河川を取り巻く課題について幅広く取り上げ、最新の研究成果や実務上の事例を通して、河川技術者にとって有用な知見を提供していただきます。

Bコース：海岸・港湾コース 「伊勢湾台風級高潮と巨大地震津波を考える」

2011年3月の東日本大震災を受けて、沿岸域の防災対策がさまざまに検討されつつある。今回の開催地である名古屋を中心とする伊勢湾沿岸域は、1959年来襲した伊勢湾台風による高潮被害を教訓に整備されてきた地域でもあり、今後に生じるかもしれない東海・東南海・南海連動型地震による津波対策も迫られています。

「沿岸防災 津波・高潮を中心に」という総合題目で、2006年度の水工学に関する夏期研修会が実施されましたが、今回の研修会では、それを踏まえて、いま改めて、「伊勢湾台風級高潮と巨大地震津波を考える」ために必要なことについて、8名の講師にご講演いただくことにしました。初日は、高潮災害を主題として、愛知県の取組みを紹介していただくとともに、地球温暖化に伴う台風規模の増大による高潮の影響、過去の記録にもとづいた極値統計解析による確率潮位、そのように想定される外力に対して、防波堤の信頼性設計をどのように考えるか？これらをテーマに講義いただきます。翌日には、今後に懸念される南海トラフの巨大地震による最大クラスの津波の特徴、これまでに来襲した津波による被災とその教訓、港湾部のみならず砂浜海岸などの沿岸域における津波に対する防災および減災対策、そして、自助、公助、共助を支える地域防災力の向上をめざして講義いただきます。

本研修会で提供される最新の知見が、皆様方が現在取組まれている課題の解決の一助となれば幸いです。

詳細は、土木学会 学会誌 7月号 会告を参照ください。

<http://www.jsce.or.jp/journal/kaikoku/m201307/07.shtml>